

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「多様なニーズで高校教育を求める生徒」を受け止め、一人ひとりが自分のペースに合わせて学習できる学校
1 通信制という学びのスタイルを通して柔軟な学習システムを提供する。
2 人権を尊重し、生徒一人ひとりが責任を持ち、支え合い、安心して学べる学校。
3 「確かな学力」を定着させ、自尊感情を育て、ひろく社会に貢献できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立 （1）通信制の機能強化を進めるため、校内運営組織を強化し、働き方改革を進める。 ア 生徒の実態や生徒・保護者のニーズを見据えた通信教育システムの検討 イ 大阪府学校教育審議会答申に基づいた通信制の機能強化についての検討 ※運営委員会を中心として組織的に各種課題解決を図り、令和 8 年度には卒業予定生の卒業率 75%以上をめざす。 （R3 74%、R4 71%、R 5 70%）
2 「確かな学力」「豊かな人間性」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上 （1）通信制における観点別学習状況評価の更なる研究を進め、生徒の実態に合ったレポートの作成と、スクーリング内容の精選、及び指導方法を改善する。 ア 学習の理解が深まり、「主体的な学び」に繋がるレポートの作成及び添削指導 イ 公開スクーリングの実施と研究スクーリングを通じてスクーリング力の向上を図る。 ウ 教育活動における ICT 化の推進 エ 学習が進まない生徒への支援 （2）人権尊重の教育の推進 ア 3 年間を見通した人権教育計画の策定と実施 （3）教職員研修の充実 ア 初任者転任者への研修を充実させ、人権研修等を計画的に実施し、通信制教育への理解を深め、さらなる充実を図る。 イ 教職員の校外研修への参加及びその共有を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断におけるレポートに関する肯定的評価 90%程度を維持する。 （R3 レポート 87% スクーリング 87% R4 レポート 93% スクーリング 94% R 5 レポート 92% スクーリング 93%） ※教職員向け学校教育自己診断における「（経験の少ない教職員を）学校全体で育成する体制が取られている。」の肯定的評価を令和 8 年度には 90%をめざ （R3 86% R4 75% R 5 60%）
3 生徒支援と相談体制の強化・充実 （1）生徒及び未成年生徒の保護者との面談や外部連携を推進し、支援体制を充実させる。 （2）要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有を通して危機管理体制を強化する。 （3）通信制の生徒に学校生活を楽しむ機会を保障する。 ※ 生徒向け学校教育自己診断における「気軽に質問や相談をすることができる先生がいる。」の肯定的評価を令和 8 年度には 75%をめざす。 （R3 65% R4 73%R 5 69%） ※ 生徒向け学校教育自己診断における「安心して学校生活が送れている。」の肯定的評価を令和 8 年度には 95%をめざす。 （R3 90% R4 89% R 5 90%）
4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実 （1）生徒の実態に応じたソーシャルスキル教育及びキャリア教育の検討・実施 （2）進路情報の発信 ※ 教職員向け学校教育自己診断における「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。」の肯定的評価を令和 8 年度には 80%をめざす。（R3 81% R4 78% R 5 62%） ※ 生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生きがいについて考える機会がある。」の肯定的評価を令和 8 年度には 75%をめざす。 （R3 71% R4 69% R 5 72%）
5 情報発信・広報活動の充実及び防災教育の取組み （1）情報発信の充実 ア 学校 HP、桃谷通信（冊子）の内容の充実をはかるとともに学習支援クラウドサービスアカウントの活用を拡充する。 （2）広報活動の充実 ア 学校説明会、学校 HP の充実 （3）防災教育の取組み ア 防災計画の策定及び実践的な避難訓練の実施 イ 安全で安心な学校づくり

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
1. 全般について 学校教育自己診断の生徒回答数が 493 件と、R 5 の 286 件から大幅に増加した。今年度、紙面回答からフォーム作成ツールでの回答に変更としたため、回答数の減少も見込んでいたが、一斉メールや Google クラスルームでの案内に加え、案内文を全活動生に郵送したことで、周知徹底ができた成果であると考ええる。ただし、回答数が増加したことでより多様な回答が集約できることになるため、今年度の学校教育自己診断は、傾向として全項目で肯定率は下がるものと考えられていた。 一方、保護者の回答数は 200 件（R 5：202 件）と、ほぼ同数であった。教員の回答数は 31 件（R 5：45 件）と減少している。	第 1 回（7/19） （意見）過去に比べ、卒業生の進学率が上がっている。私立と比べ学費の安さはかなり魅力的だと感じた。 （質問）不登校生徒に対してどのような支援・取り組みを行っているのか。 ➡声掛けなどを含め生徒に寄り添った優しい指導が何よりも効果的。後期から入学（転入）できる仕組みなどを含めて今後検討していきたい。 （質問）登校したにもかかわらず、教室の座席が埋まっており、スクーリングに参加できないことがある。大人数が苦手な生徒にとってなんとかならないか？ ➡昼間部は、教室の席はほとんど埋まる状態。一方で日夜間部はあまり混雑していないため、教室
2. 学校に対する意識に関するもの	

府立桃谷高等学校 通信制の課程

教員の「学校行事が魅力あるものとなるよう工夫・改善を行っている」の肯定率は77％（R5：76％）、生徒の「学校行事は楽しく参加できるように工夫されている」の肯定率が 83％（R5：83％）と高い値で、教員の取組みが一定生徒に評価されているものの、「学校は楽しい」の項目について、生徒の肯定率が62％（R5：67％）、保護者の肯定率について59％（R5：61％）と減少しており、R5も併せて高くない値である。 一方、「安心して学校生活を送れている」の項目では肯定率が88％（R5：89％）と高い水準となっており、近年の通信制高校を選択する生徒は、通信制高校に「楽しさ」ではなく「安心感」を求めており、本校が行っている生徒に寄り添ったきめ細かな支援・指導の成果が表れていると考える。 3. 生徒指導に関するもの 「先生の指導に納得できる」の項目について、生徒の肯定率は92％（R5：89％）、保護者の肯定率は87％（91％）といずれも高い肯定率となっている。また、教員の「学校はカウンセリングマインドを取り入れた指導を行っている」の肯定率が83％（R5：67％）、「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる」の肯定率が81％（R5：76％）で、いずれも上昇しており、「安心して学校生活を送れている」の肯定率も高いことから、今年度は生徒情報の共有の仕方を見直し、適切な生徒支援へ繋ぐことができるよう「支援委員会」が機能的に動くことができている成果が表れていると考える。 一方、「気軽に質問や相談をすることができる先生がいる」の項目は肯定率が66％（R5：69％）とやや低いため、生徒は相談をすることへの敷居の高さを感じており、SCやSSWとも連携し、充実した相談体制について生徒へ周知する工夫が必要であると考え。 4. 進路指導に関すること 教員の「生徒一人ひとりの興味・関心、適性に応じて進路選択ができるようきめ細かい指導をおこなっている」の数値が71％（R5：62％）と向上している。今年度より教育庁からのキャリア教育コーディネーターの派遣回数が増加したため、これを補おうと進路部と担任が協力して進路指導にあたった成果であると考え。通信制という特性上、継続したキャリア教育という点についてはまだまだ課題はあるが、今後もキャリア教育コーディネーターや関係機関と連携を取りながら、ホームルームなども活用して体系化したキャリア教育が行えるようにしていきたい。 5. 学習指導に関すること 生徒の「レポートは自力で完成できる内容になっている」「レポート添削は学習の理解を深めるのに役立っている」の項目について、いずれも肯定率が93％（R5：95％）、92％（R5：90％）と、高い水準となっている。 スクーリングにおいても、生徒の「スクーリングの内容は分かりやすく、学習の手助けになっている」の肯定率が93％（R5：93％）と高く、保護者の「子どもは、スクーリングがわかりやすいと言っている」の項目が78％と、R5の66％から大きく上昇した。教員の日々の取組みが生徒から保護者に伝わっているものと思われる。また、教員の「コンピュータ等の情報機器をスクーリング等で活用している」の項目で、肯定率が87％と、R5の76％から大きく上昇しており、ICTを活用した学習についても研究が進んでいることが成果に表れていると考える。 6. 道徳・人権教育に関するもの 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目について、生徒の肯定率が81％（R5：72％）、保護者の肯定率が78％（R5：81％）と高い値であり、教員の「道徳や人権に係る教育活動ができているかどうか」に関する複数の項目で、肯定率がいずれも80％以上となっているなど、教員の道徳・人権教育に対する意識は高く、生徒へ適切に指導できている成果であると考え。今後も道徳・人権教育について、より工夫して取り組んでいきたい。	に入りづらい生徒に対しては、事情をよく聞いた上で昼間部から日夜間部への転籍の方法もあることを伝えている。 第2回（11/28） （質問）退学する生徒はどのような理由で退学しているのか。進学している生徒も増えてきているが。 ➡退学する理由は、私学の通信制に転学や病気が原因で学習が続けられなくなる、仕事が多忙になり学校に登校する時間がないことなどがあげられる。その中でも本校に入学し、学んでいく中で希望を見出す生徒もいる。就職だけではなく、進学する生徒も増えてきており、学んでいく中で新たな希望を見出していくことができるのが高校のある姿だと考えているので、セーフティネットの学校として、生徒が新しい希望を見出せるようにしていきたいと考えている。 （質問）公開スクーリング、研究スクーリング、校内初任者研修について ➡初任の先生だけではなく、異動でこられた先生方にも通信制のことについて学んでもらいたいと考え、このような取り組みを始めた。通っている生徒も多様なため、教員に対して校内初任研や若桃塾などの取り組みも行っている。研修等を通して経験年数の短い教員を含め教員の垣根を越えて楽しみながら学びを深めている。 第3回（1/30） （意見）・教員対象の学校説明会の実施時期について、中学校としては11月の進路面談の前などに実施してもらおうと多様な進路選択の1つになるし、中学校教員の事前の知識にもなる。 （質問）・レポート上で観点別評価をすることは困難であると思うが、見通しはあるか。 ➡研修でメインに取り組んだ部分が「主体性」について。問題設定で工夫をしたほうがよいのではないかと助言いただいた。自由に答えることができるような問題設定をしたらいいのではないか。それをすると採点やレポート添削が困難になるので、各先生がバランスを考えながら工夫していければ。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 5 年度値〕	自己評価
1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する 教育システムの確立	(1) 通信制の機能強化を進めるため、校内運営組織を強化し、働き方改革を進める。	(1) ・分掌、教科の機能を高め運営委員会を中心とした学校組織を強化し、働き方改革を進める。	(1) 運営委員会の充実 ・教員向け学校教育自己診断における「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定的評価〔40%〕、「職員会議をはじめ各種会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能している」の肯定的評価〔36%〕を共に 50%以上とする。 ・30 時間超の月平均人数を昨年度より減少させる。〔6 名〕	(1) 運営委員会の充実 ・教員向け学校教育自己診断における「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定的評価は 32%、「職員会議をはじめ各種会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能している」の肯定的評価は 39%であった。次年度の校内人事に向け配慮していく。(△) ・30 時間超の月平均人数は 4.2 名であった。
	ア 生徒の実態や生徒・保護者のニーズを踏まえた通信教育システムの検討 イ 大阪府学校教育審議会答申に基づいた通信制の機能強化についての検討	ア、イ ・大阪府内の不登校生徒の希望になるような取組みの検討。その中で 2 範囲制への移行を検討する。	ア、イ ・教員向け学校教育自己診断の質問項目「本校の教育活動や教育課程などについて、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定率の向上。〔71%〕	ア、イ ・教員向け学校教育自己診断の質問項目「本校の教育活動や教育課程などについて、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定率は 61%であった。次年度は、情報共有の機会を工夫して増やしていきたい。(△)
2 「確かな学力」「豊かな人間性」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上	(1) 通信制における観点別学習状況評価の検討を進め、生徒の実態に合ったレポートの作成と、スクーリング内容の精選、及び指導方法を改善する。	(1) ・観点別評価導入の状況を教員全体で共有し改善を図る。 ・生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫を教員全体で共有する。	(1) ・教員向け学校教育自己診断の質問項目「本校の教育活動や教育課程などについて、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定率の向上。〔71%〕(再掲) ・教員向け学校教育自己診断「主体的に学習に取り組む生徒の育成について、教員でよく話し合っている」の肯定的評価を昨年度以上とする。〔64%〕	(1) ・「本校の教育活動や教育課程などについて、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定率は 61%であった。(△) ・「主体的に学習に取り組む生徒の育成について、教員でよく話し合っている」の肯定的評価は 48%であった。 今年度は、レポート上で観点別学習状況評価をどう見ていくか、というテーマでパッケージ研修を導入した。そこで教科を超えた情報共有ができたので、この流れを絶やさないよう、次年度は教科代表者委員会主導で取り組みを続けていき、上記 2 点の指標の向上をめざしたい。(△)
	ア 学習の理解が深まり、「主体的な学び」に繋がるレポートの作成及び添削指導 イ 公開スクーリングの実施と研究スクーリングを通じてスクーリング力の向上を図る ウ 教育活動における ICT 化の推進	ア、イ、 ・学校教育自己診断結果やレポート添削評価の分析を通し、レポート作成、スクーリング内容、及び指導法の改善を行う ・教科会議の充実と教科・科目の取組み目標を明確にする。 ・研究スクーリングで検討の機会を確保し、内容の充実を図る。 ウ ・スクーリングをはじめ特別活動、総合的な探究の時間等で ICT の活用を進める。	ア、イ ・生徒向け学校教育自己診断レポート添削・スクーリング内容について、肯定的評価それぞれ 90%程度に維持する。〔レポート 92%、スクーリング 93%〕 ・教員向け学校教育自己診断「教員の間でスクーリング方法等について検討する機会を持っている」の肯定率を昨年度以上とする。〔73%〕 ウ ・教員向け学校教育自己診断「コンピューターの情報機器を各教科のスクーリング等で活用している」の肯定率を昨年度以上とする。〔75%〕	ア、イ ・レポート添削・スクーリング内容について、肯定的評価それぞれ 93%であった。(○) ・「教員の間でスクーリング方法等について検討する機会を持っている」の肯定率は 65%であった。通信制高校で研究スクーリングの取り組みをしている学校は少ないので、今一度原点に返って取組みを継続していく。(△) ウ ・「コンピューターの情報機器を各教科のスクーリング等で活用している」の肯定率は 87%であった。(○)

府立桃谷高等学校 通信制の課程

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 5 年度値〕	自己評価
	エ 学習が進まない生徒への支援 (2) 人権尊重の教育の推進 ア 3年間を見通した人権教育計画の実施 (3) 教職員研修の充実 ア 初任者転任者への研修充実させ、人権研修等を計画的に実施し、通信制教育への理解を深め、さらなる充実を図る。 イ 教職員の校外研修への参加及びその共有を図り校内初任者研修等の充実を図る	エ ・学習が進まない生徒（0 単位生徒）へのアプローチを続ける。 (2) ア ・HR 等を活用し、すべての教育活動を通して、人を思いやる豊かな人間性を育む。 (3) ア 転任者研修、人権研修等を計画的に実施し、通信制教育への理解を深め、さらなる充実を図る。 イ 教職員の校外研修への積極的な参加及びその共有を図り校内初任者研修等の充実を図る。	エ ・昨年度は 2 名参加。今年度は 10 名をめざす。 (2) ア ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率を昨年度と同程度を維持する。〔83%〕 (3) ア、イ ・教職員向け学校教育自己診断における「(経験の少ない教職員を) 学校全体で育成する体制が取られている。」の肯定的評価を昨年度以上とする。〔60%〕 イ ・校外研修の報告人数を維持する〔校外研修報告 10 名〕	エ ・学習が進まない生徒に対して、4 月の登校日に相談コーナーを設置して相談を待っていたが、今年度も 2 名の参加にとどまった。生徒の事情は様々なので、一律に集めての指導は難しい。次年度は、個別の事情を吸い上げ、支援体制を手厚くしていきたい。その中で、通信制 P T においても仕組みの検討を進める。(△) ア ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率は 81%であった。今年度、回答にフォームを取り入れた関係で回答数が倍増したため、同程度とみなす。(○) (3) ア、イ ・教職員向け学校教育自己診断における「(経験の少ない教職員を) 学校全体で育成する体制が取られている。」の肯定的評価は 48%であった。次年度は、初任者が相談しやすい校内初任者研修を実施していきたい。(△) イ ・校外研修の報告人数は 4 名と落ち込んだ。職員会議の簡素化に努め、研修内容の共有を進めたい。(△)
3 生徒支援と相談体制の強化・充実	(1) 生徒及び保護者（未成年生徒の）との面談や外部連携を推進し支援体制を充実させる。 (2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有を通して危機管理体制を強化する。 (3) 通信制の生徒に学校生活を楽しむ機会を保障する。	(1) 支援を必要とする生徒を抽出し、「個別の教育支援計画」を作成し、担任・分掌が連携して組織的な支援を充実させる。 ・ 2 つの相談室を機能的に活用する。 ・再編整備計画の実施に伴う SC、SSW、CC の活用。 ・外部団体による居場所事業を継続する。 (2) ・健康調査の結果、支援が必要な生徒に対しての個別面談や担任が行う面談等を通して生徒が抱える諸問題を明らかにし、教職員で共有する。 ・第 1 当初（5 月）に研修会を開催し、生徒の疾病や障がいに対する知識を深め、個々の生徒に応じた保健指導や生徒指導に活かす。 (3) 学校行事の在り方を常に見直し、生徒の交流を図る。	(1) ・生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「安心して学校生活を送れている」〔90%〕「気軽に相談できる先生がいる」〔69%〕の肯定率をそれぞれ昨年度程度とする。 (2) ・個別の教育支援計画作成生徒の年度末までの学習継続率を昨年度並みとする。 (10 名中 8 名 80%) ・生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率 90%の維持〔92%〕 (3) 生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「学校行事は楽しく参加できるよう工夫されている」の肯定率の向上〔82%〕	(1) ・生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「安心して学校生活を送れている」は 88%、「気軽に相談できる先生がいる」は 66%の肯定率であった。微減であるが、今年度、回答にフォームを取り入れた関係で回答数が倍増したため、同程度とみなす。(○) (2) ・個別の教育支援計画作成生徒の年度末までの学習継続率は 30 人中 25 人 83%であった。(―) ・生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率は 92%であった。(○) (3) 生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「学校行事は楽しく参加できるよう工夫されている」の肯定率は 83%であった。(○)

府立桃谷高等学校 通信制の課程

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 5 年度値〕	自己評価
4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実	(1)生徒の実態に即したソーシャルスキル及びキャリア教育の検討・実施	(1) - キャリアカウンセラーと連携しキャリア教育を充実する。個別面談及び就職関係講座・面接練習の実施。 - 担任との連携を深め、学校全体で進路指導を実施する体制を強化する。そのための教員向け進路指導説明会及び進路指導研修会を充実させる。 - 就職希望者対象説明会等の実施。 - 就職試験受験者への指導の充実。 - 進学希望者対象説明会等の実施。	(1) - 就職希望者内定率 90％以上を維持する。〔45/45 100％〕 - 生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生きがいについて考える機会がある。」の肯定的評価を昨年度以上とする。〔72％〕 - 教員向け学校教育自己診断の「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択できるよう、きめ細かい指導を行っている」の肯定的数値を昨年度以上とする。〔62％〕	(1) - 就職希望者内定率は、31/31、100％であった。(○) - 生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生きがいについて考える機会がある。」の肯定的評価は 73％であった。(○) - 教員向け学校教育自己診断の「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択できるよう、きめ細かい指導を行っている」の肯定的数値は 71％であった。(◎)
	(2)進路情報の発信	(2) - 保護者向け進路説明会の開催。 - HP、学習支援クラウドサービスアカウントの活用、進路だよりの発行を通し、進路への意識を高める。	(2) - 保護者向け学校教育自己診断の「本校ではお子様に将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定率を昨年度以上とする。〔56％〕 - 生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生きがいについて考える機会がある。」の肯定的評価を昨年度以上とする。〔72％〕	(2) - 保護者向け学校教育自己診断の「本校ではお子様に将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定率は 69％であった。(◎) - 生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生きがいについて考える機会がある。」の肯定的評価は 73％であった。(○)
5 情報発信・広報活動の充実及び地域と連携した防災教育の取組	(1)情報発信の充実 ア HP、桃谷通信（冊子）の内容の充実をはかるとともに学習支援クラウドサービスアカウントの活用を拡充する。	(1) ア HP において、教科や分掌からのブログを効果的に更新し、生徒への情報提供の充実を図る。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断「本校の HP はわかりやすい」の肯定率の維持〔86％〕	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断「本校の HP はわかりやすい」の肯定率は 81％であった。微減であるが、今年度、回答にフォームを取り入れた関係で回答数が倍増したため、同程度とみなす。(○)
	(2)広報活動の充実 ア 学校説明会、学校 HP の充実	(2) ア - 引き続き学校説明会の内容の充実を図る。 - 府民及び在校生が本校の通信制教育を理解できる HP づくり。	(2) ア・ - 学校説明会の開催回数と参加人数を維持する。〔8 回 1109 名〕 - 生徒向け学校教育自己診断「本校の HP はわかりやすい」の肯定率の維持。〔86％〕 上記（1）アの再掲	(2) ア - 学校説明会の開催回数と参加人数は 6 回 1058 名であった。新たに中学校・高校教員向けの説明会を実施した。(○) - 生徒向け学校教育自己診断「本校の HP はわかりやすい」の肯定率は 81％であった。微減であるが、今年度、回答にフォームを取り入れた関係で回答数が倍増したため、同程度とみなす。(○)
	(3)防災教育の取組み ア 実践的な避難訓練の実施	(3) ア、イ 効果的な避難訓練の実施に向けて協議するとともに、突発的な事象に対応できる組織力を培う。	(3) ア、イ 教員向け学校教育自己診断「災害や突発的な事件、事故等に対し組織的に迅速かつ適切な対処ができている」の肯定率を昨年度以上とする。〔42％〕	(3) ア、イ 教員向け学校教育自己診断「災害や突発的な事件、事故等に対し組織的に迅速かつ適切な対処ができている」の 41％と昨年度と同様であった。次年度は、緊急時の H P 掲載のできる教職員数を確保し、大災害のあった際に対応できるようにしていく。(△)
	イ 安全で安心な学校づくり			